

福井県産アナバチ科各属の検索表

田 塙 正 *

はじめに

ファーブルの「昆虫記」や岩田久仁雄著の「自然観察者の手記」の中に見られるように、アナバチ科の昆虫は、母バチが子バチを育てるのに色々な巣づくりの建築技術を著しく発達させた興味深いグループで素晴らしい観察材料である。しかも、その生活史や巣づくり技術を調べるのには、ペンとノート、物さしに加えて根気づよい粘りさえあれば、特別な機械や装置は必要としないのである。唯、日本産アナバチはその種名や属名を調べる図鑑類がいまだに完全にととのっていない。例えば、現在市販されている図鑑の中で最も多くの種が登載されている北隆館の原色昆虫大図鑑でさえもアナバチ(=ジガバチ)科は29属52種でいるにすぎない。1985年現在、日本産既知種は一覧のように51属272種で、さらにいくつかの未知種の生息が予想される。また、アナバチ科の属についての検索表は、1951年安松が、1954年には岩田が発表している。しかし、当時より属についての取り扱いも変り、その和名も下記のようにかなり改称されているので、福井県産アナバチ属の検索表を新しく作成した。

日本産アナバチ科各属の比較

安松(1951)並びに岩田(1954)によって発表された属と今回のものを比較する。和名は発表時のもので、空白の属は現在も和名がそのまま使用されている。終りの()内の数は岩田の発表した種数である。

2.	(1)	26. スカトガリアナバチ属	(1)
4.	ヒメジガバチ属	(3)	27. クロジガバチ属	(4)
5.	(5)	28.	(6)
9.	(3)	29. トゲムネアナバチ属	(3)
13.	チビアナバチ属	(6)	33. ギングチバチ属	(50?)
14.	ヒメアナバチ属	(4)	38. ペレーキスジガバチ属	(1)
15.	コシボソアナバチ属	(11)	39. ツヤドロバチモドキ属	(1)
16.	マスダチビアナバチ属	(1)	41. ヤマトドロバチモドキ属	(1)
18.	ホソチビアナバチ属	(6)	42.	(2)
20.	ツヅアナバチ属		45. キスジジガバチ属	(4)
21.	オビトガリアナバチ属	(3)	48.	(1)
23.	トガリアナバチ属	(3)	49. ハナダカバチモドキ属	(1)
24.	ヌカダカアナバチ属	(2)	50.	(1)
25.	ミツメトガリアナバチ属	(1)	51.	(7)

注1. 安松はこの他に Notogonidea? クロトガリアナバチと Motes ヒメトガリアナバチをあげているがこれは 22) Liri 属に入れている。

注2. 岩田はクロトガリアナバチを Motes に入れ新たに 10) Mimesa を加えた。

《日本産アナバチ属一覧》

Subfamily 亞科	Tribe 族	Genus 属 (日本産種数)	県産 種数
	Dolichurini	1. ヒメセナガアナバチ属 <i>Dolichurus</i> (1)	福井に産しない
1) Ampulicinae	Ampulicini	2. セナガアナバチ属 <i>Ampulex</i> (3)	再調査の必要がある 1?
1) セナガアナバチ亜科：2族2属3種内ヒメセナガアナバチは琉球から記載され東南アジアまで分布。セナガアナバチの分布は京都までは確実に分布するが、福井の記録は疑問。			
	Sceliphronini	3. ルリジガバチ属 <i>Chalybion</i> (2)	2
	Sceliphronina		
		4. キゴシジガバチ属 <i>Sceliphron</i> (3)	3
		5. アナバチ属 <i>Sphex</i> (5)	3
	Sphecini		
2) Sphecinae	Sphecina		
		6. ツツアナバチ属 <i>Isodontia</i> (4)	3
	Prionyxini	7. リュウキュウアナバチ属 <i>Prionyx</i> (1)	福井に産しない
		8. ミカドジガバチ属 <i>Hoplammophila</i> (1)	1
	Ammophilini		
		9. ジガバチ属 <i>Ammophila</i> (3)	3
2) アナバチ亜科：4族7属19種内リュウキュウアナバチは琉球から東南アジアに分布。			
		10. コブズセンバチ属 <i>Mimesa</i> (1)	1

福井県産アナバチ科各属の検索表

Subfamily 亜科	Tribe 族	Genus 属 (日本産種数)	県産 種数
		11. トゲプセンバチ属 <i>Odontopsen</i> (1)	1
	Psenina		
Psenini	12. () <i>Mimumesa</i> (5)		4
	13. プセンバチ属 <i>Psen</i> (13)		10
Psenulina	14. マエダテバチ属 <i>Psenulus</i> (= <i>Nipponopsen</i>) (10)		9
3) Pemphredoninae (Pseninae のこともある)	15. アリマキバチ属 <i>Pemphredon</i> (13)		7
	16. イスカバチ属 <i>Passaloecus</i> (6)		6
	17. カワリイスカバチ属 <i>Polemistus</i> (2)		1
Pemphredonini Pemphredonina			
	18. エンモンバチ属 <i>Stigmus</i> (6)		4
	19. スジエンモンバチ属 <i>Carinostigmus</i> (1)		1
	20. エナシエンモンバチ属 <i>Spilomena</i> (5)		4
3) ヒメコシボソバチ亜科： 2族11属63種が分布する。県内にはこの内48種が分布する。			
	21. ケラトリバチ属 <i>Larra</i> (2)		2
Larrina			
	22. コオロギバチ属 <i>Liris</i> (6)		2
Larrini			

Subfamil 亞科	Tribe 族	Genus 属 (日本産種数)	県産 種数
		23. ハヤバチ属 <i>Tachytes</i> (5)	5
	Tachytina		
		24. ヌカダカバチ属 <i>Tachysphex</i> (4)	1
4) Larrinae			
		25. コトガタバチ属 <i>Lyroda</i> (3)	2
	Miscophini		
		26. ニテラバチ属 <i>Nitela</i> (3)	1
		27. ピソンバチ属 <i>Pison</i>	3
	Trypoxylonini		
		28. ジガバチモドキ属 <i>Trypoxylon</i> (30)	18
4) ケラトリバチ亞科： 3族 8属61種が分布する。県内にはこの内34種が分布する。			
Oxybelini	29. トゲアナバチ属 <i>Oxybelus</i> (4)		2
	30. マメギングチバチ属 <i>Entomognathus</i> (1)		1
	31. ホソギングチバチ属 <i>Rhopalum</i> (14)		12
	32. ヒメギングチバチ属 <i>Crossocerus</i> (36)		26
5) Crabroninae	33. モトギングチバチ属 <i>Crabro</i> (1)	福井に産しない	
Crabronini			
	34. トワダギングチバチ属 <i>Towada</i> (1)		1

福井県産アナバチ科各属の検索表

Subfamily 亜科	Tribe 族	Genus 属 (日本産種数)	県査 種数
		35. ナミギングチバチ属 <i>Ectemnius</i> (20)	16
		36. サメハダギングチバチ属 <i>Lestica</i> (6)	3
		37. () <i>Ceratocrabro</i> (1)	1
5) ギングチバチ亜科：2族9属84種が分布する。県内にはこの内62種が分布する。			
Mellinini		38. ハエトリバチ属 <i>Mellinus</i> (1)	1
		39. ツヤバチ属 <i>Alysson</i> (4)	3
Alyssonini		40. ツヤバチモドキ属 <i>Didineis</i> (1)	福井に産しない
		41. ヤドリドロバチモドキ属 <i>Nippononysson</i> (1)	1
Nyssonini		42. ドロバチモドキ属 <i>Nysson</i> (2)	2
		43. () <i>Argogrytes</i> (2)	2
6) Nyssoninae		44. カワラアワフキバチ属 <i>Dienoplus</i> (1)	1
Gorytini		45. アワフキバチ属 <i>Gorytes</i> (4)	2
		46. コイケアワフキバチ属 <i>Eogorytes</i> (1)	1
		47. フタモンアワフキバチ属 <i>Lestiphorus</i> (1)	1

Subfamily 亜科	Tribe 族	Genus 属 (日本産種数)	県 種 産 数
		48. キアシハナダカバチモドキ属 Stizus (1)	1
	Stizini		
	49. スナハキバチ属 Bembecinus (5)		1
Bembicini	50. ハナダカバチ属 Bembix (1)		1

6) ドロバチモドキ亜科： 6族 13属 25種が分布する。県内にはこの内 17種が分布する。

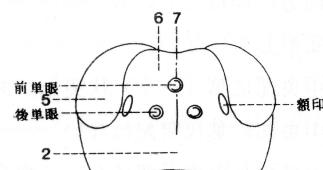
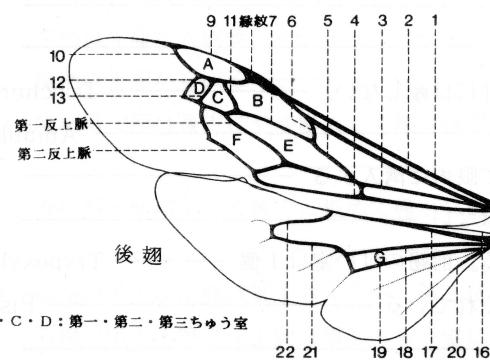
7) Philanthinae Cercerini 51. ツチスガリ属
Cerceris (15)

7) フシダカバチ亜科： 1族 1属 15種が分布する。県内にはこの内 8種が分布する。

注：属名の空白欄はまだ和名がつけられていない。

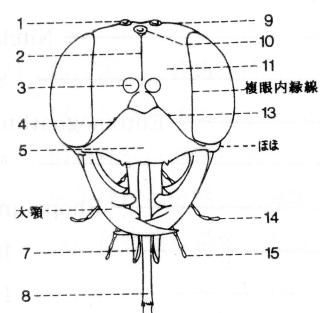
福井県産アナバチ科各属の検索表

前 翅

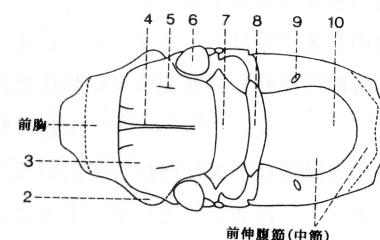


頭 部

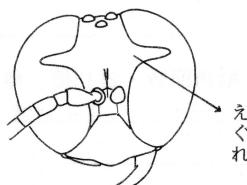
B・C・D:第一・第二・第三ちゅう室



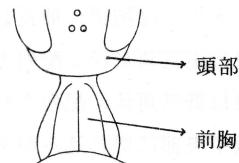
顔面正面図



胸 部



Trypoxylon
顔面



Ampulex

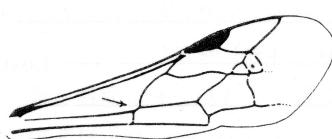


図1 Alysson

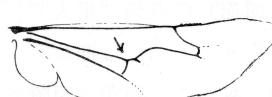


図3.



図2. Didineis



図4

『福井県産アナバチ科各属の検索表』

1. 前胸は前方に伸長している _____ 2
前胸は変形していない _____ 3
2. 触角間中央部に葉(ヘラ)状突起がある(福井には産しない) _____ Dolichurus
触角間中央部に葉状突起はない _____ Ampulex
3. 両眼の内縁線が中央上部において強くえぐれて眼内に湾入する _____ 4
" 強いえぐれはない _____ 5
4. 腹部は細長く、第1腹節は多少とも柄状となる。前翅のけい室は1個 _____ Trypoxyylon
腹部は特に伸長しない、各節間はわずかにくくれている _____ Pison
5. 前翅のちゅう室は1個 _____ 6
前翅のちゅう室は2~3個、その上部が柄状(図1・2)のものも含める _____ 15
6. 前伸腹節(中節)の基部中央に刺状突起がある _____ Oxybelus
" 突起はない _____ 7
7. 両眼の内縁線は下方に向かって広がる。小形種で4.5mm以下 _____ Nitela
" は並行に近いか、下方に向かって強く狭まる _____ 8
8. 大顎の先端は分岐しない、尾域は両性ともある _____ Entomognathus
" して2歯~3歯をそなえる _____ 9
9. 腹部第一節は伸張して長こん棒形の腹柄となる _____ Rhopalum
" は柄状に伸長していない _____ 10
10. 单眼は正三角形状に配列される。触角節数・雄13節、雌12節 _____ 11
单眼は低三角状に配列される _____ 12
11. 前胸中央部に切れ込みがある _____ Crossocerus
" ない _____ Towada
12. 触角節数は雄13節・雌12節、尾域は三角状で平坦(福井には産しない) _____ Crabro
触角節数は雌雄とともに12節 _____ 13
13. 体(特に頭部)の点刻は粗大で、額印は明瞭 _____ Lestica
" は細かく、額印は不明瞭 _____ 14
体の点刻は細かく、額印は明瞭である _____ Ceratocrabro
14. 複眼内縁線と触角穴は接している _____ Ectemnius
15. 前翅のちゅう室は2個 _____ 16
" は3個 _____ 29
16. 腹部基部の2・3節は赤黄色、第1腹節下面はえぐられる _____ Nippononysson
腹部は全部黒、第1腹節下面はえぐられない _____ 17
17. 明瞭な腹柄を持つ _____ 18
腹柄は短く不明瞭か、柄状とはならない _____ 27

福井県産アナバチ科各属の検索表

18. 大型種で、体長は 17 mm 以上 —————— 19
 小型で、体長は 9 mm 以下 —————— 25
19. 腹柄は 2 節から成る —————— 20
 腹柄は 1 節から成る —————— 21
20. 腹柄第 2 節は後方にやや膨大して幾分腹節状となり、その気門は両側のほぼ中央にある
 —————— Ammophila
 腹柄第 2 節は柄状で後方に極めて僅かに広くなり、その気門は両側中央より後方にある
 —————— Hoplammophila
21. 前翅の第 1 反上脈は第 1 ちゅう室、第 2 反上脈は第 3 ちゅう室に入る —————— 22
 前翅の第 1 ・ 第 2 反上脈は第 2 ちゅう室に入る —————— 24
22. 複眼内縁線は並行一(福井には産しない) —————— Prionyx
 " は内側にゆるく湾曲する —————— 23
23. 中節の気門から後方にかけて深い斜溝があり、腹柄は第 1 腹節より短い —————— Sphex
 " はない、腹柄は第 1 腹節より長い —————— Isodontia
24. 体は黒で、黄斑を持つ —————— Sceliphron
 体は全体ルリ色 —————— Chalybion
25. 前翅縁紋は異常に大きい、反上脈は 1 本 —————— 26
 前翅縁紋は普通、反上脈は 2 本 —————— Pemphredon
26. ほほに明瞭な条刻がある —————— Carinostigmus
 " はない —————— Stigmus
27. 前翅の縁紋は異常に大きい、反上脈は 1 本 —————— Spilomena
 前翅の縁紋は普通、反上脈は 2 本 —————— 28
28. 両眼の内縁線は著しく下方に狭まる —————— Polemistus
 " はほぼ並行かわずかに下方に狭まる —————— Passaloecus
29. 第 2 けい室は有柄 —————— 30
 " は無柄(まれに極めて短い柄を持つことがある) —————— 33
30. 腹部各節は強く括れる、第 2 けい室は 1 本の反上脈をうける —————— Cerceris
 腹部は正常 —————— 31
31. 第 2 ちゅう室は、2 本の反上脈をうける、縁紋は小型 —————— Nysson
 第 1 ・ 第 2 反上脈は、それぞれ第 1 ・ 第 2 ちゅう室に連絡する —————— 32
32. 前翅・図 1 —————— Alysson
 前翅・図 2 —(福井には産しない) —————— Didineis
33. 第 1 腹柄は柄状 —————— 34
 " でない —————— 39
34. 腹部に黄色・黄白色の斑紋を持つ大型種 —————— Mellinus
 " はない —————— 35

35. 後翅・図3 多くは顔面中央に葉状の付属物がある ————— Psenulus
 後翅・図4 全て顔面中央に葉状の付属物を欠く ————— 36
36. 中胸側の上部に縦しわが多い ————— Mimesa
 中胸側は平滑である ————— 37
37. 腹柄上面の少なくとも後半部の正中線は稜となる ————— Mimumesa
 " とならない ————— 38
38. ほほの下に大きな歯状突起がある ————— Odontopesen
 " はない ————— Psen
39. 後単眼の輪郭は明瞭（前単眼不正形のこともある） ————— 40
 " は多少とも不明瞭 ————— 48
40. 中節に明瞭な心形域を持たない ————— Lyroda
 " を持つ ————— 41
41. 前翅の縁紋は小形 ————— 42
 " は大形 ————— 44
42. 上唇は異常に伸長する、前単眼は不正形、大型種 ————— Bembix
 " しない、前単眼も正常 ————— 43
43. 中胸側板に溝で囲まれた区画はない ————— Bembecinus
 中胸側板後上方に溝で囲まれた区画がある ————— Stizus
44. 前けい節外面に刺毛を欠く ————— Argogorytes
 " 列がある ————— 45
45. 前翅の先端近くに黒斑がある ————— Lestiphorus
 " はない ————— 46
46. 後翅・図5 ————— Dienoplus
 後翅・図6 ————— 47
47. 第2腹節は第1腹節にたいして、急に膨大する、後方に幅広いオレンジ色の帯がある
 上記の特徴と一致しない ————— Eogoeytes
 頭頂部に両眼に接して太い縦隆起がある、中節は中胸より長いか等長
 " はない、中節は中胸より短い ————— 49
 50
49. 大顎内縁に歯状突起はない ————— Larra
 " がある ————— Liris
50. 後単眼は輪郭やや不明瞭だが大体楕円状である ————— Tachysphex
 後単眼は不正長形、♀の尾域・♂の腹端節は毛で被われる ————— Tachytes



図5



図6

参 考 文 献

- J. P. BEAUMONT, J.D.(1964) : Sphecidae, Insecta Helvetica. 3. 1 - 168.
- BOHART AND MENKE(1976) : Sphecid Wasps of the World. University of California Press. California U.S.A. 1 - 695.
- 岩田久仁雄(1954) : 蟻界速報. 生態昆虫, 別冊1. 1 - 16.
- LOMHOLDT, O. (1975) : The Sphecidae (Hymenoptera) of Fennoscandia and Denmark. Scandinavian science press Ltd., Klamepenborg. (part 1) 1 - 224. (part 2) 225 - 452.
- 安松 京三(1951) : 日本のアリ類・ジガバチ類及びハナバチ類. 新昆虫, 4 (8) 2 - 7.
- 常木 勝次(1957~1973) : 蜂類研究手引(1)~(31).
- (1983) : Ceratocrabro Tsuneki, 1977, is a distinct Genus (Hym., Sphecidae, Crabroninae). S. P. J. H. A. (日本蜂類研究会特別出版物), 27. 1.
- (1983) : Discovery of the Male of Ceratocrabro shimoyamai (Tsuneki). (Hym., Sphecidae, Crabroninae). 同上誌. 29 - 32.